

国語科学習指導案

単元名
伝えたいことをはっきりさせて書こう
教材名
「新聞記者になろう」
～三年生に愛川体験学習について伝えよう～

重点化した指導事項

「B書くこと」

- ア 相手や目的に応じて、適切に書くこと。
- ウ 自分の考えが明確になるように段落相互の関係を考えること。

重点化した成長課題

人とのコミュニケーション，協調・協力
自分の気持ちを相手に伝えようとする。

単元目標

【生き方の基礎・基本】

- ・ 文字言語によって伝え合うことのよさを味わう。
- ・ 構成を工夫することにより、自分の考えを明確にしようとする。

【学びの基礎・基本】

- ・ 相手や目的に応じ適切な表現を考える。
- ・ 書こうとすることの中心を明確にする。

【知識・技能の基礎・基本】

- ・ 相手や目的に応じて敬体や常体を使い分けて書く。
- ・ 事柄ごとのまとめ、段落を意識する。

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	(ア) 自分が伝えたい思いをしっかりとち、3年生が分かる文章になるように工夫しようとしている。
書く能力	(イ) 3年生に伝えるということを意識して書いている。 (ウ) 3年生に伝えたいことがらの中心を明確にする構成を工夫している。 (エ) 書いた文章を読み返して間違いなどを正したり、書き加えたりしている
言語についての知識・理解・技能	(オ) 句読点を適切に打ち、また、段落の始めなどは行を改めて書いている。

指導計画（13時間）本時 10/13

	学習活動	評価と（ ）と支援（・）
1	<p>持ち寄った新聞をもとに、記事の内容や数、書き方について話し合い、学習の見通しをもち、自分たちの新聞作りの計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を提示し、その記事の見出しを考える。 ・新聞の良さをとらえる。 	<p>「新聞記者になろう」という活動に興味をもち、新聞を調べている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の新聞の拡大版を掲示する。 <p>新聞作りの手順を理解し、学習の見通しをもっている。</p>
2	<p>記事の内容について話し合い、おおまかな割り付けを決めて取材の分担をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材文を参考にして記事の内容と割り付けを話し合い、取材分担を決めて取材活動をする。 ・3年生に新聞を通して知りたいことを聞く。 	<p>新聞に取り上げる話題をめぐって、積極的に話し合ったり準備したりしている。</p> <p>テーマに沿い、取材したいことをはっきりさせて準備を進めている。</p> <p>伝えたい中心に沿って取材活動を行い、必要な材料を集めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を伝えようとしているのか明確にしておくように助言する。
3	<p>自分の分担の記事を下書きして、グループで読み合い確かめ、新聞を仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材メモをもとに記事に必要な事柄を選んで下書きする。 ・下書きを読み合い、記事の正確さ、分かりやすさなど、内容について確認し、必要があれば修正する。 ・計画した割り付けに沿って、新聞を作り仕上げる。 	<p>伝えることを意識して、書き表し方を工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を書くときに大切なことをおさえ、掲示などしておく。 ・相談にのりながら適切に資料や材料などが集められるように支援する。 ・3年生が読みたいと思える見出しを考え、工夫するように支援していく。 <p>自分の原稿を読み直し、符号の使い方なども意識して記事を書いている。</p>
4	<p>新聞作りで力を入れたところ、がんばったところを説明しながら、新聞を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できあがった新聞を読み合い、相互評価する。 	<p>相互交流を行い、友達の作品の良さを見つけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを準備しておく。

本時目標

記事の下書きを読み合って、3年生が分かりやすい記事になるように確かめることができる。

本時の展開

学習活動と内容	支援（・）と評価（ ）
1. 本時の活動を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような視点で推敲したらよいかを全体で押さえる。

誤字 脱字 文体 表現
名前や数が正確か
5W1Hが入っているか
3年生に応じた文章になっているか

記事を読み合い、見直しをしよう。

2 . 自分や友達の下書きを読み合い、推敲する。

自分や友達の下書きを読み直し、読み手のことを考えながら、文字の誤りや表現の間違っているところを見つけ訂正している。

・上手く推敲できない児童には、教師が対話しながら活動させる。

3 . 友達のアドバイスなどを元にもう一度原稿を見直し、必要に応じて2回目の下書きをする。

・早く終わった児童には見出しの工夫をするように伝える。

4 . 本時のまとめをし、次時の確認をする。